

2016年5月26日

報道機関・関係者各位

株式会社 鳥取再資源化研究所

「はばたく中小企業・小規模事業者・商店街」の受賞について

～ ガラスリサイクル技術を活用した、モロッコを始めとする乾燥地節水型農業技術が評価される ～

株式会社鳥取再資源化研究所（本社:鳥取県 代表取締役:竹内 義章、以下「当社」）は、経済産業省 中小企業庁主催の「[はばたく中小企業・小規模事業者・商店街](#)」に選定されました。

「はばたく中小企業・小規模事業者・商店街」は、中小企業庁が、革新的な技術開発、創造的なサービス提供を通して、地域社会の活性化や海外への積極的なビジネス展開を実施する中小企業・小規模事業者を選定するものです。本選定については、当社がモロッコ王国（以下「モロッコ」）を始めとした乾燥地地域で行っている、多孔質ガラス発泡材『ポーラスα®』を活用した節水型農業技術の普及・事業展開への取り組みが評価されました。

現在プロジェクトを実施しているモロッコでは、トマトの試験栽培で灌水量を50%減らしながら収穫量を28%引き上げることに成功しました。水資源の有効活用と農業セクターの拡大を目指す同国政府、事業収益の維持・拡大を目指す現地農業生産者のニーズに応えることが期待されています。この試験栽培は独立行政法人国際協力機構（JICA）の「モロッコ国乾燥地節水型農業技術普及・実証事業」の一環として実施されており、試験栽培のほか、現地生産・販売に向けた準備を進めています。（本プロジェクトの概要は本誌2頁ご参照。）

モロッコでは今年11月にCOP22（気候変動枠組条約第22回締約国会議）が開催されます。気候変動に対する注目が集まっている中、本技術を活用することで、気候変動による少雨化に見舞われても農業を継続することが可能となります。また従来は降水量が少なく農業ができなかった地域での農業を可能とすることで、食料安全保障にも貢献することが期待されます。

当社は2016年5月27日（金）まで、東京ビックサイトにて開催されている「[2016NEW 環境展](#)」に出展しております。当社製品及び事業に関しご興味をお持ちの方は、ぜひ会場まで足をお運びください。

（「2016NEW 環境展」の詳細は[こちら](#)をご確認ください。）

当社は、創業以来、廃ビンのリサイクル技術を応用し、地球規模の環境対策に尽力してまいりました。今後も当社主力製品『ポーラスα®』を応用した環境対策技術の研究開発・実証実験・事業化に努め、人と自然環境が共存した、より良い社会の実現へ向け精励して参ります。

◆本件に関するお問い合わせ

TEL：0858-49-6230（担当：狩野）

Mail：naoyuki.kano@t-rrl.jp

Web サイトからもお問い合わせいただけます。（[こちら](#)から）

モロッコにおける乾燥地節水型農業技術プロジェクト概要

当社は、独立行政法人国際協力機構（JICA）の普及・実証事業である「モロッコ国乾燥地節水型農業技術普及・実証事業」（以下「本事業」）を受託し、2015年6月より当地で、国立大学法人鳥取大学と共同開発した当社製品『ポーラスα®』を活用した節水型農業の実証実験と現地生産・販売の実現に向けた調査・準備を、モロッコ農業省及びその下部機関であるスス・マッサ地域農業開発公団（ORMVASM）と共に実施しています。

モロッコの農業が抱える最大の問題の一つは水です。モロッコは農業国であり、例えばトマト輸出高は世界第4位（出所：UNCOMTRADE、2015年）を誇ります。その一方で、同国野菜生産の大部分を占めるスス・マッサ地域を始めとして、農業地域は乾燥・半乾燥地域も多く、農業用水を含む水の持続的な利用は大きな課題です。さらに、気候変動の影響で降水量の減少が見込まれており、国連開発計画（UNDP）の推計では同国の降水量は2050年までに最大で現在の半分にまで減少する可能性がある（※）と指摘されています。

（※ <https://www.undp-aap.org/countries/morocco?language=en> 2016年5月20日アクセス）

本事業は大きく2つのパートに分かれ、1つはORMVASMの試験圃場での試験栽培、もう1つは現地農家の実際の圃場での栽培です。ORMVASM試験圃場での1シーズン目の栽培はすでに完了し、現在同試験圃場での2シーズン目の試験栽培の準備に入っています。昨季の試験栽培では、トマト栽培で灌水量を50%カットしながら収穫量28%増を、インゲン栽培で灌水量を50%カットしながら収穫量22%増を実現しました。

今後は、現地農家の実際の圃場での試験栽培、またORMVASM試験圃場での費用対効果をさらに高めるための試験栽培、及び現地生産・販売に向けた準備を、現地パートナー候補企業と本格化させていきます。



現地協力機関ORMVASMのAbrou所長と試験圃場に『ポーラスα®』を導入している様子。（写真左:当社代表 竹内 同右:ORMVASM Abrou所長）



インゲンの収穫を行っている様子。

《参考》

※1 モロッコにおける節水型農業の詳細はこちらをご確認ください

[「モロッコにおける当社製品『ポーラスα®』を利用した試験栽培で、インゲン生産について灌水量50%カットしながら収量22%増を達成」](#)（2016年3月14日）

[「モロッコにおいて国際協力機構（「JICA」）実証・普及事業での『ポーラスα®』の現地実証実験を開始」](#)（2015年9月11日）

[「国際協力機構（JICA）とモロッコにおける『ポーラスα®』の実証事業にかかる業務委託契約を締結」](#)（2015年6月4日）

※2 「ポーラスα®」を活用した土壌改良技術については[こちら](#)をご参照ください。